

災害救助犬じゃがいもが わんだフルまでい大使に



「大いに活躍を」と菅野村長から「飯館村わんだフルまでい大使」の名札を贈られるじゃがいも

8月14日、「いいたて村の道の駅までい館」で、「飯館村わんだフルまでい大使任命式」が行われました。任命を受けたのは、村出身の災害救助犬「じゃがいも」です。じゃがいもは、避難中に村内で生まれた雑種犬で、預けられた岐阜県のNPO法人「日本動物介護センター（山口常夫理事長）」で災害救助犬の訓練を受け、11回もの挑戦を経て認定試験に合格しました。今後は災害救助犬として活動するかたわら、村のPR大使も務めます。じゃがいも、よろしくね！

長泥行政区がミニ拠点の 要望書を提出しました



要望書は村役場本庁の村長室で嶋原良友行政区長（左）から菅野村長に手渡されました

8月8日、長泥行政区が、村に要望書を提出しました。この要望書は、現在の集会所や体育館などがある場所に、宿泊施設や資料館などを建設し、「ミニ復興拠点」として整備することを求めるものです。帰還を希望する住民のための災害公営住宅の整備や、農地の一部に太陽光発電施設を建設することなども、合わせて要望しています。地区では、この拠点の整備を復興の足掛かりにしていきたいと考えており、行政区総会での説明などを経て、提出に至ったということです。

職員のアイデアいっぱい ホームのあったか納涼祭



祭り提灯が下げられた会場。廊下には手作りのお祭りが飾られ、外では花火も楽しみました

8月18日、特別養護老人ホーム「いいたてホーム」で、恒例の納涼祭が開かれました。今年も職員が心をこめて準備した手作りのお祭りです。串揚げ、わたあめ、ソフトクリームにチョコバナナと、お祭りグルメの模擬店も用意しました。入所者は、浴衣や甚平を着て、会場へ。髪飾りをつけたり、化粧をしたり、おめかしした女性たちは、その少しはにかんだ笑顔がとてもチャーミングでした。訪れた家族の皆さんも、入所者の車イスを押したりしながら、一緒に納涼祭を楽しんでいました。

「道の日」に合わせて 道路の美化活動を実施



翌日に竣工式、翌々日に開業をひかえた道の駅と県道沿いの花畑などを中心に、ゴミを拾いました

「道路ふれあい月間」の行事として、毎年8月10日の「道の日」に合わせて、各地で道路の美化活動が行われています。村では今年も、相双建設事務所と地元企業、村の関連部署などが協力して、県道原町川俣線で、ゴミ拾いなどを行いました。当日は約40人の参加者が、交流センター「ふれ愛館」前に集合。開業直前の道の駅を中心に、歩道や道路脇などのゴミをていねいに拾い、美化に努めました。きれいにさせていただいた状態を維持できるよう、利用する側も心がけていきましょう。

はやま湖花火大会を開催 7年ぶりに大輪の花火咲く



湖面は輝き花火の音が谷間にこだましました

8月19日、はやま湖（真野ダム）の湖畔で、7年ぶりの花火大会が開催されました。「2017年はやま湖花火大会実行委員会（高木正勝委員長）」の主催によるもので、復活した地元の花火を一目見ようと、多くの観客が訪れました。オープニングには、地元・大倉の神楽が披露され、村とかねてから交流する女優・浜美枝さんのトークショーも華を添えました。打ち上げられた花火はスターマインや水中花火など合わせて約250発。花火の輝きが、湖面と夜空を鮮やかに染め上げました。

福島大学の学生が開いた 手作りのピアガーデン



「までいな家」の前庭に村の人も集まり浴衣姿の大学生たちと盆踊りなども楽しみました

8月10日、福島大学の学生たちが、村役場に隣接する「までいな暮らし普及センター」通称「までいな家」で、ピアガーデンを開きました。会場には、村内外で村民が作った野菜のおつまみも並び、夕暮れ時になると、浴衣姿の大学生が、足を運んだ村民を笑顔で迎え入れました。福島大学は、この春、村と協力協定を結んでおり、村を元気づけるさまざまなプログラムを実施しています。企画した大学生らは、「来年度以降も続けていきたい」と継続的な活動に意欲を見せていました。